

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

|   | 視点             | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)   | 1年間の目標   | 取組の内容   |   | 校内評価  |  | 学校関係者評価<br>(3月4日実施)  | 総合評価 (3月14日実施)  |   |
|---|----------------|---|--|---|---|---|--|--|---|---|
|   |                |   |  | 具体的な方策  | 評価の観点   | 達成状況  | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題   | 改善方策  |
| 1 | 教育課程<br>学習指導   | 一人ひとりの確かな学びを支えるための教育課程を編成し、教育目標の実現に向け、各教科等の指導を関連付けながら魅力ある授業を展開する。 | ① 児童・生徒の実態や地域の特性を生かした系統的な教育課程を編成し、一人ひとりの指導の充実を図る。<br>② 教員一人ひとりが研修や振り返りを積極的にを行い、自立活動や教科等の指導を適切に行う。        | ①-1 年間指導計画を作成するにあたり、教科等の系統的な指導につながることに留意する。<br><br>①-2 教育実践の発信を積極的に行うことにより、家庭と学校との連携を深め、効果的な学習を実践する。<br><br>② 学部、学年ごとに授業の振り返りや記録の方法等を工夫し、PDCAサイクルを効果的に実践できるようにする。 | ①-1 教科等の系統的な指導につながることに留意して、年間指導計画を作成することができたか。<br><br>①-2 教育実践の発信を積極的に行うこと等を通して、家庭と学校との連携を深めることで、一人ひとりの指導を効率的に行うことができたか。<br><br>② 教員一人ひとりが研修や振り返りを積極的に行うことで指導を適切に実践するができたか。     | ①-1 小学部では生活科に関しては低学年・高学年の系統性を考えることができた。またB部門では、校外学習の行き先や利用交通機関等について検討することができた。その他の教科については、年間計画をお互いに見合い、知ることはできたが、学部として系統性を持った計画には至っていない。中学部は、教科について学習の様子を振り返り、反省を活かして次の学習や活動設定、支援方法の検討に活かすことができた。系統性については、1～3年同じ内容で行ったので、意識することが難しかった。高等部では作成した単元内容整理表に、2学期まで実施した授業について教科ごとに単元ごとの実施内容について記入してもらっている。今年度中に記入してもらったデータをもとに、学年・教科ごとにまとめ、整理する予定である。<br><br>①-2 小学部では、タブレット等情報機器を使用して、日々の学習の様子を記録し、面談や学年通信で子どもの様子を保護者と共有することができた。また、長期休暇中や登校が難しい児童に授業の一部をオンラインで発信したり、動画配信を行う等の対応を行う学年もあった。授業でも動画や画像を使用し、児童にとってより分かりやすい学習活動を行う事ができた。<br><br>②中学部では、体育での研究授業において、本時の目標に基き、個々の目標をたてて、指導・支援することができた。授業後は、学部内で授業映像を観て、振り返りを行い、今後の指導の手立て等について意見を出し合うことができた。体育や音楽では、授業での生徒の取り組みの様子を記録に取り、学年を超えて支援方法の工夫を行った。 | ①-1 小学部では教科ごとに系統性が一覧になり、確認できるように引き続き取り組んでいく。まずは、教科ごとに行っていることをまとめられるような一覧を作成したり、部門ごとに、教科担当で集まり、情報共有する等、情報共有の仕方を考えていく必要がある。中学部では、今年度の各学年の取り組みを受けて、同じ単元の中でも段階を踏んで系統的な視点をもって取り組んでいく。学習内容は同じであったも、学年によってねらいを変えていく必要がある。また高等部への進学を見据えて、生活等の授業で3年間を通して学んでいく内容を検討する必要がある。高等部では今年度は、各教科の単元ごとの実施内容を整理することにとどまっているので、次年度も引き続き単元内容整理表を活用するとともに、記述内容に、単元の目標(生徒に身につけさせたい力)を書く欄を追加し、縦の系列と横のつながりがわかるように整理していく。<br><br>①-2 小学部では新型コロナウイルス蔓延により、保護者が学校を気軽に見学できない状況や、登校が難しくなる児童のために、引き続き、情報機器を活用した実践を継続していく必要がある。また、iPad等の情報機器が現在の数では、使用に限りがある場合もあるため、教員用・児童生徒用の学習用と数を増やせるとより活用しやすい。動画や写真を撮影するために、人手や物の確保も必要である。<br><br>②中学部では、作業や総合の縦割り授業では学年外の生徒の指導を行うことができた。生徒情報に関する打ち合わせの場の設定がなかったことから、個のねらいや配慮事項などの共有の機会が不十分であったため、今後は、打ち合わせ時間を設定できるとよい。 | ・学校運営協議会評価<br>研修を活かしてこんな風に授業が変わりつつある、研修で学んだことを授業に活かしているなど、教師の力量がどれだけ上がったか問いたいのはわかるが、アンケートの文言を変更したほうがいい。子どもたちの成長や様子について問う文言の変更をしたほうが、保護者も評価しやすい。<br>・保護者アンケート<br>魅力ある授業が行われているかという質問は全校でそう思うが72.1%であった。自立活動や教科等の指導は専門性に基き行われているかという質問は全校でそう思うが61.3%であった。専門性の向上に向けて研修等に意欲的に取り組んでいるかという質問に対しては、全校でそう思うが43.6%であった。記述意見としては授業参観の機会が少なく、判断が難しいとの回答が多く見られた。 | ①-1 児童・生徒の実態や地域の特性を生かした系統的な教育課程に向けて、年間計画の確認や単元内容整理表の作成に着手した。継続的に整理をしていく必要がある。<br><br>①-2 教育実践の発信について、情報機器を活用し、学習の様子を保護者と共有する環境整備を進めることができた。新型コロナウイルスの状況により、登校できない児童・生徒が出てきている現状を踏まえ、オンラインの授業の整備を進める必要がある。<br><br>②学部ごとに授業の振り返りを行い、授業改善に取り組んだ。 | ①-1 今後更に情報共有をさらに図り、単元内容整理表等教科の系統性について整備していく。<br><br>①-2 今後も新型コロナウイルスまん延の状況から、情報機器を活用した情報提供及び教育活動の実践を重ねていく。<br><br>②中学部の実践を含め、授業の振り返りや授業改善に向けた取り組みの情報共有を行っていく。   |
| 2 | 児童・生徒<br>指導・支援 | 個別教育計画作成・運用システムを構築し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。                  | ① 児童・生徒一人ひとりに応じた指導を行うために実態の捉え方や重点目標の設定について共通理解を図る。<br>② 個別教育計画検討日にクラス外の教員が参加できる仕組みを構築し、実態把握や評価を総合的に検討する。 | ①-1 児童・生徒一人ひとりの実態の捉え方について共通理解を図るために専門職の活用、研修の機会を設ける等の対応を行う。<br>①-2 重点目標の設定について学部間で共通理解を行う機会を設定する。<br><br>② 個別教育計画検討日にクラス外の教員が参加できるように計画を立て、実践する。                  | ①-1 児童・生徒一人ひとりの実態把握や重点目標の設定を専門職の活用等多角的に行うことができたか。<br><br>①-2 重点目標の設定について学部間で共通理解を行う機会を設定することができたか。<br><br>② 個別教育計画についての検討(振り返り日)をクラス外の教員の参加を含め計画的に行うことで実態把握や評価を総合的に検討することができたか。 | ①-1 小学部では医事相談等を通して校内外の専門職と連携し、児童に適した支援や指導方法を考え、実践することができた。また、児童の放課後の過ごし方についてや、家庭支援、ケース会議等を教育相談co.と連携して行うことができた。中学部においても内外部の専門職を活用できた。適切な課題設定のための見立てや、具体的な支援具の紹介等も、日々の学習活動に活かすことができた。<br><br>①-2 重点目標の設定を前年度に作成し、次年度の担任に引き継ぐシステムで行った。引継ぎの時間を設定し、確実に引き継ぐことができるようにした。また学部間で児童・生徒の指導に共通理解を図れるように、小学部6年生が中学部の体験をする機会を設定した。<br><br>②小学部では、検討日に限らず、個別教育計画の目標や手立てについて担任間や拠点校指導員を交えて話し合いができた。検討日にA部門はSLを中心に部門単位で、B部門は教育相談Co.に情報共有と研修という形で計画の立て方や評価の仕方を行うことはあったが、検討日にクラス外の教員を交えて、実態把握や計画の見直し・評価を行うことは難しかった。   | ①-1 今後も校内外の専門職や教育相談co.と連携しながら、児童に合せた支援・指導方法を考えていく。医事相談後も定期的に情報共有を行っていく。年度の早い時期に専門職からのアドバイスをもらい、指導したあとの経過も見てもらえるとよい。実態把握や評価について、偏った見方にならないように、今後も専門職を含む複数の教員で行い、家庭の様子等も併せて、総合的に検討して指導に当たれることが望ましい。<br><br>①-2 重点目標の設定について、学部間で共通理解を行う機会を設定することはできなかった。今年度の取り組みを踏まえ、次年度に向けて計画を行っていく。<br><br>②検討日をどのように活用していくのかについては再度見直し必要がある。クラス外の教員・専門職・教育相談Co.に話し合いに入ってもらえば、学部や学年をあらかじめ決めるか、研修という形で部門や学部単位で行うなどの工夫が必要である。   | ・保護者アンケート<br>個別教育計画に基づき、教員間や保護者と指導内容を共有しながら取り組んでいるかという質問は全校でそう思うが78.4%であった。一人ひとりの実態把握を深め、教育的ニーズに応じた指導や支援を図っているかという質問は全校でそう思うが78.2%であった。自立と社会参加に向けて、現在と将来のつながりを考えた指導、授業づくりが行っているかという質問は全校でそう思うが72.1%であった。保護者に対し、進路や福祉制度について十分な情報提供がなされているかという質問は全校でそう思うが54.5%であった   | ①-1 児童・生徒一人ひとりの実態について共通理解を図るために専門職、教育相談Co.との連携を積極的に進めることができた。<br><br>①-2 重点目標の設定について、学部内では引継ぎを丁寧に行うことにより、継続的に重点目標を設定することができた。学部間の共通理解を図る機会を設定できなかった。<br><br>② 個別教育計画についての検討について、クラス外の教員の参加を含め計画的に進めることができた。                                   | ①-1 今後更に、校内外の専門職や教育相談co.と連携を進め、児童一人ひとりに合せた支援・指導を行うことができるようにしていく。専門職、教育相談co.との連携の在り方についても整理していく。<br><br>①-2 重点目標の設定についての共通理解を図ることについて今年度の取り組みを踏まえ、次年度に向けて検討の場を設定していく。<br><br>② 検討日をどのように活用していくのかを含めて、検討日の持ち方を整備し、評価を総合的に行うことができるように改善を進める。 |
| 3 | 進路指導・<br>支援    | 地域の関係機関との連携を築き、児童生徒が地域で豊かに暮らし働くことにつながる指導・支援を展開する。                 | ① 児童・生徒の自立と社会参加に向けて、キャリア教育を推進するとともに、学部間のつながりを踏まえ、作業学習の充実を図る。<br>②地域資源の活用と開発を意識した計画と実践を行う。                | ①-1 作業コーディネーターを中心に作業担当者間で話し合う機会を作り、中学部、高等部の作業のねらいや目的を検討し、学部間のつながりを構築する。<br>①-2 生徒の取組や変容について面談等を通して保護者に伝え、家庭との連携を含めたキャリア教育を進める。<br>② 相談支援センター等地域関係機関との連携を強化していく。   | ①-1 学部のつながりを含めて、本校の作業学習の在り方を検討し、学部間のつながりを構築することができたか。<br><br>①-2 面談等を通して保護者との情報共有を丁寧に行い、家庭との連携体制を深めることができたか。<br><br>② 相談支援センター等地域関係機関との連携を強化し、進路支援を進めることができたか。                  | ①-1 次年度の作業班の運営状況をもとに、今後も作業班編成については、継続して検討をしていきたい。中学部とのつながりについては、今後の取組内容を見て、次年度につなげていきたい。<br><br>①-2 引き続き、面談やおおばフェスタ等の機会に児童・生徒の学習の様子や学校の取り組みを動画等を使って発信していく。<br><br>②福祉相談会(CW)、求職登録(HW)、基幹相談との連携を密にしていく。  | ・学校運営協議会評価<br>小、中学部は福祉の制度とふれあう機会が非常に少ないと思う。障害福祉の案内を手帳の更新時にもらっていると思うが、全てを見ている人が少ないと思う。困っているときに区役所のCWに相談するのがいい。学校の中だけで解決は難しく、サービスの活用が大事になってくる。<br>・保護者アンケート<br>地域で「ともに学び、ともに楽しむ、ともに喜ぶ」教育活動に取り組んでいますかという質問は全校でそう思うが70.3%であった。学校が教育相談などによる支援に取り組んでいますかという質問は全校でそう思うが69.4%であった。   | ①-1 作業コーディネーターが中心となって、中学部、高等部の作業のねらい、つながりについての検討を進めることができた。<br><br>①-2 生徒の取組や変容について面談等を通して保護者に伝えることについて情報機器等を活用し進めることができた。<br><br>②相談支援センター等地域関係機関との連携の実践を積み重ねることができた。   | ①-1 今年度の検討内容を踏まえ、次年度も継続して作業班編成、運営について検討し、学部間のつながりを明確にしている。<br><br>①-2 家庭との連携体制については情報機器の整備や方法を含め更に整備を進める。<br><br>②地域の福祉制度の利用等について、学校と地域機関との連携を強化して、推進していく。  |   |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)   | 1年間の目標   | 取組の内容   |  | 校内評価   |   | 学校関係者評価<br>(3月4日実施)  | 総合評価(3月14日実施)   |  |
|---|--------------|---|--|---|--|--|---|--|---|--|
|   |              |   |  | 具体的な方策  | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等  |  | 成果と課題   | 改善方策   |
| 4 | 地域等との協働      | 共生社会の実現に向け、地域が積極的に学校運営に参画し、学校で、地域で「ともに学び、ともに楽しむ、ともに喜ぶ」教育活動を創造・展開する。 | ①学校運営協議会、各部署、地域学校協働本部の活動を通して、地域の方が学校づくりに参画する仕組みを整備する。<br>②地域のニーズを把握するとともに、地域貢献する教育活動を模索する。 | ①-1 学校運営協議会や各部署での協議が学校運営に反映できるようにする仕組みを構築する。<br>①-2 学校運営協議会、各部署、地域学校協働本部の位置づけを整備して、学校づくりへの関わりを明確にする。<br>②-1 地域関係機関や教員間での連携を図り、居住地交流や学校間交流等全教職員が交流及び共同学習を担う取り組みを進める。<br>②-2 学校運営協議会や地域学校協働本部と連携して地域のニーズを把握し、地域貢献する教育活動を創造し実践する。<br>②-3 外部人材の活用を図り、通学支援や学習活動の充実を図る。<br>②-4 あおば支援学校を活用したスポーツ文化プログラム、施設開放を準備し、活動を充実させる。 | ①-1 学校運営協議会や各部署で協議されたことが、職員に周知され、学校運営に反映される仕組みを構築することができたか。<br>①-2 学校運営協議会や各部署、地域学校協働本部の位置づけを整備し、学校づくりへの参画についての道筋を作ることができたか。<br>②-1 居住地交流や学校間交流等全教職員が交流及び共同学習を担う取り組みを進めることができたか。<br>②-2 地域貢献する教育活動を実践することができたか。<br>②-3 外部人材の活用を図り、通学支援や学習活動の充実を図ることができたか。<br>②-4 スポーツ文化プログラム、施設開放について整備をすることができたか。 | ①-1 切れ目ない支援部会、地域連携部会、学校評価部会を設置し、協議を行った。<br>①-2 地域学校協働本部として、2名の地域連携コーディネーターを配置し、学校運営協議会と教職員の連携についての整備を行った。<br>②-1 あおばフェスタで小学校、中学校、高校と作品交流をすることができた。小学部では鉄小との交流は7月はコロナの蔓延状況により中止となったが、12月に1回行えた。コロナ対策をしながら、各学年で活動し、良い交流ができた。居住地交流は、新型コロナウイルス蔓延の状況が落ち着いたところで行えた児童もいたが、希望の回数が出なかったり、コロナで自粛する家庭もあった。<br>②-2 高等部では、作業学習(公園清掃、稲刈り、花壇整備)、探Q!(学校周辺草刈り、鶴見川沿いゴミ拾い)、各教科(地域貢献ジャー、稲の束のまとめ、買い物学習等)それぞれに、地域連携コーディネーターや作業コーディネーターの協力を得て、地域貢献につながる教育活動を創造・実践することができた。<br>②-3 小学部ではボランティアを活用して関係を築き、児童の実態を知ってもらうことができた。学校地域コーディネーターと連携し、遠足や校外学習の場所の選定や外部団体との調整をしていただき、外部の団体に授業を行ってもらうことができた。一部の学年は地域の畑の収穫体験や七夕の竹をいたがき、お礼を届ける等地域の人との交流も行えた。一方、A部門で気軽に外に出られない児童には、校外の施設の利用や地域を知ることに、課題が残るところもあった。<br>②-4 施設開放は、登録団体が増え、毎月活発な利用が見られた。運営についてコミュニティ・スクールとの連携をはかり、施設開放の運営を地域で行っていくための検討を進めることができた。かながわバラスポーツ事業「オリオリ教室」については後期実施に向けて準備を進めている。「オリオリ教室」を開催することができた。参加希望者も増え、調整を行いながら、実施した。 | ①-1 学校評価部会での協議事項は、学校関係者評価として学校評価に反映されているが、次年度以降教職員も参加しての熟議の場を設定していく。<br>①-2 地域学校協働本部の位置づけを更に整備し、学校運営協議会が学校づくりに参画する道筋を明確にしていく。<br>②-1 地域学校協働本部と連携しながら、次年度も計画・実施していく。<br>感染症予防の観点から、直接的な交流の他、オンラインや作品交流等の間接的な交流の形も模索していく必要がある。実施の方法については、今年度の反省をもとに検討していく。居住地交流は相手校との調整や新型コロナウイルスの蔓延の状況に合わせた対応が今後も必要だが、可能な限り実施していく。<br>②-2 地域連携コーディネーターの持っている情報や、学部独自の取組も含め、今後も地域貢献する教育活動の創造・実践を進めていく。<br>作業コーディネーター、地域連携コーディネーターの担当業務が重なっている部分も見られ、整理する必要があるかと思われる。<br>②-3 小学部では引き続き、ボランティアの活用や外部の方とのつながりを継続していく。地域コーディネーターさんを通じて校外の施設や地域の人たちとのつながりを増やしていく。特にA部門で、外に出ていくことが難しい児童の地域貢献については、外に出ることにこだわらず、校外への作品展示等、実態に合わせた方法を模索していく。<br>②-4 学校開放は、学校運営協議会において整備を進め、地元で活動している団体と連携し、鍵等の管理を任せられると良い。地域の自治会にバックアップに入ってもらい、「町の学校」として運営していけるように準備を行う<br>「オリオリ教室」の今後の運営について検討をしていく。 | 学校運営協議会評価<br>コロナの中で先生方はじめ地域と保護者と協力できていることに感銘を受けている。2～3学校運営協議会の委員になっているが他は協議会自体ほとんどが開かれていない。書面などもある。なかなか学校の状況がわからない中で、5回もできているのは大変いいと思っている。保護者向けの研修会について、専門の方を呼んで、オンラインで気軽に参加できるような機会が増えてくると広がっていくと思う。学校間交流をしているということはすばらしいことであると思っているが、交流先の学校の評価も聞きたい。交流させてもらっているというのではなく、学んだというところを知っておく必要があるのではないかと思う。<br>近隣学校と当たり前のように交流ができるようになるに関係性が見えるようになってきてよいと思う。スポーツやダンスなど体験的な学びで本当の交流ができるので良い。<br>地域学校協働本部においてカリキュラムと地域コーディネーターがどういう風に動いたらいいか現状把握する可視化ツールとして一覧表を作成している。それを基に学校がカリキュラムマネジメントを行い、地域が動くようなしくみにできると良い。<br>居住地交流や学校間交流などの交流及び共同学習に積極的に取り組んでいますかという質問は全校でそう思うが64.9%であった。<br>ボランティアなどの外部人材の活用を図っていますかという質問は、全校でそう思うが68.5%であった。 | ①-1 学校運営協議会を5回開催し、協議を行った。切れ目ない支援部会、地域連携部会、学校評価部会を設置し、それぞれ学校運営に関わる案件について検討を行った。<br>①-2 地域学校協働本部を設置し、2名の地域連携コーディネーターを配置して、整備を進めた。<br>②-1 新型コロナウイルスの状況に合わせた居住地交流、学校間交流を実施した。<br>②-2 教職員より情報収集を行い、地域貢献する教育活動を推進した。<br>②-3 ボランティアの活用を進め、学習活動や学校の環境整備等に参画していただいた。<br>②-4 あおば支援学校を活用したスポーツ文化プログラム、施設開放を準備し、活動を充実させることができた。今後の運営に向けて、更に整備を進める必要がある。 | ①-1 次年度については、新たに地域学校協働部会の設置や学校運営協議会へ教職員が参加しての熟議の場を設けることなど計画する。<br>①-2 地域学校協働本部の位置づけを更に整備していく。<br>②-1 感染症対策を考慮した上で居住地交流、学校間交流を実施していく。<br>②-2 今後地域のニーズについての把握を進めるとともに、地域学校協働本部と各学部の連携を整備し、地域貢献する教育活動の創造・実践を進める。<br>②-3 ボランティアの調整等の業務を地域学校協働本部に担っていただくように整備を進め、更に外部人材の活用を推進する。<br>②-4 スポーツ文化プログラム、施設開放共に今後の運営について、学校運営協議会等において協議を行っていく。 |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | 児童生徒、保護者、教職員、地域と誰もが安全・安心で、使いやすい整った教育環境の充実を図る。                       | ① 感染症予防対策を含めた児童・生徒が安全に安心して過ごすことのできる教育環境を整備する。<br>② ライフワークバランスを踏まえた職場環境づくりを推進する。            | ①-1 学校運営要項や各種マニュアルについての職員の共通理解を図り、活用を図るとともに適宜改善を行う。<br>①-2 社会情勢等を踏まえながら、学習の保障を考慮した教育活動の整備を進める。<br>②-1 退勤時間を設定し、職員に周知して一人ひとりがタイムマネジメントを意識して取り組めるようにする。<br>②-2 グループ内の業務内容の見直しやグループ間の業務内容の整理を行い、業務の効率化を図る。   | ①-1 学校運営要項や各種マニュアルの活用及び改善を行うことができたか。<br>①-2 社会情勢を踏まえた上で、学習の保障を考慮した教育活動に取り組むことができたか。<br>②-1 職員一人ひとりが退勤時間を意識して職務に取り組むことができたか。<br>②-2 業務内容の見直し、業務の整理を進めることができたか。  | ①-1 出席簿の作成マニュアル、指導要録記入の手引き、書類作成の流れを打ち合わせ掲示板に掲載したり、抜粋したものを配付したりして周知を図った。年度途中の書式変更や不具合の修正の方法については必要に応じて対応した。<br>①-2 校外学習や宿泊学習の計画を感染症予防の観点から見直し、感染リスクの少ない計画へ変更しながら、学習を進めた。登校できない児童・生徒には動画配信や教材の紹介等を行った。<br>②-1 退勤時間を設定し、毎日周知を行ったが、職員アンケートの結果を見ても、退勤時間を意識して職務に取り組むことが難しかったという意見が多かった。<br>②-2 グループの業務見直しを行い、令和4年度に向けて整備を行った。  | ①-1 引き続き学籍関係の書類作成のマニュアルを周知するとともに、係のチェック方法を確実にし、ミスが起きない体制を作る。<br>①-2 引き続き、感染症予防の対策をしながら、学習活動を最大限実現できるように努める。<br>②-1 業務の平準化を図ることで、教職員一人ひとりの負担が偏らないように整備を進める。退勤時間に教職員全員が退勤できるように改善を進める。<br>②-2 教職員一人ひとりの業務について、業務内容を可視化していく。   | 学校運営協議会評価<br>コロナが発生して休校をせざるを得なかったとの話があったが、子どもたちを帰せるかどうか、帰すことができないときにどうするのか等考えて対応する必要がある。<br>児童・生徒が活動しやすいよう施設設備、教育環境の整備が行われ、学校の美化・安全が図られていますかという質問は全校でそう思うが87.3%であった。<br>学校日より、学年だよりやホームページにより、保護者や地域へのわかりやすい情報提供に努めていますかという質問は全校でそう思うが71.8%であった。<br>学校の防災対策や連絡体制などは整備されていますかという質問は、全校でそう思うが73.4%であった。  | ①-1 各グループにおいて、学校運営要項、各種マニュアルについて、活用及び改善を行った。<br>①-2 感染症対策を踏まえた学習活動の計画、実施に努めることができた。ガイドラインを整備し、状況に合わせた学習活動の保障を行った。<br>②-1 退勤時間を意識することは難しかったとの意見が多かった。業務の平準化を進めていく必要がある。<br>②-2 各グループ、チームにおいて業務の見直しを検討することができた。   | ①-1 引き続き、各グループにおいて、各種マニュアルについて、活用及び改善を進める。福祉避難所マニュアル等の整備を進める。<br>①-2 感染症対策を講じた上で、児童・生徒の学習活動を最大限実施できるように更にガイドライン等の整備を行う。<br>②-1 業務の平準化を進めるとともに、退勤時間を意識して業務に取り組む意識の醸成に努める。<br>②-2 検討をもとに令和4年度の業務について、一人ひとりの業務を整理する。  |